

10年間の活動を振り返って



琴似商店街振興組合
理事長 玉田 一至 さん

道内で初めてアダプト・プログラムの取り組みを始めた、琴似商店街振興組合。10年前の開始時からずっと携わってきた同組合の玉田理事長に、これまでの活動を振り返っていただきました。

——活動を始めたきっかけは？

琴似栄町通は、多くの通勤・通学者や買い物客でにぎわう反面、ごみのポイ捨てなどが増えて悩んでいたことから、アダプト・プログラムに着目しました。

——大変だったことやうれしかったことは？

本当に多くの方から協力をいただいたおかげで、この10年間、大変だと思ったことはないですね。まちを通り掛かる人からの「ご苦労さまです」の声がうれしいです。

——これからの取り組みについての抱負など

まずは今後も、この活動を長続きさせることです。やらされていると思わず、自分から進んでやるんだという気持ちになることが大事だと思います。

——広報さっぽろをご覧の方に一言

アダプト・プログラムは、意欲があれば少人数でも気軽に参加できます。皆さんも自分ができる範囲で結構ですから、ぜひ何かボランティア活動を始めてみてはいかがでしょうか。



琴似栄町通での清掃活動

アダプト・プログラム参加団体インタビュー

次ページの紹介も併せてご覧ください！

みんなの力で地域をきれいに



市立山の手小学校
教諭 波多野 厚 さん

授業の中でアダプト・プログラムに取り組んだ、山の手小学校6年生の皆さん。活動を通して、自分たちの行動が地域の人々の心も変えていくと学んだそうです。授業を担当した波多野先生に、そんな子どもたちの姿について伺いました。

——子どもたちはどんな様子で取り組んでいましたか？

「花壇の花をいつまでもきれいに咲かせたい」など、常に何か目標を立てて取り組む中で、次第に自分から行動するようになりました。

——活動を通して子どもたちが学んだことは？

ごみ拾いをして、建物の隙間や自動販売機の下などあまり目立たないところにごみが多く捨てられていることに気がきました。みんな、きれいな所にはごみを捨てないんです。だからこそ、子どもたちは自分たちがまちをきれいにすることによって、通り掛かりの人はごみを捨てなくなるんだと実感したようです。

——活動を振り返って感じることは？

今年の2月に、これまでの活動を振り返り「フォーラム山の手」という発表会を行いました。子どもたちからは10年後、20年後の住みよい山の手を目指して「学校の登下校時にごみを拾いながら歩く」「小学校を卒業しても伝えられることはたくさんあるはず」など、さまざまな提案が出されました。この活動を通じて子どもたちは大きく成長したと思います。



フォーラム山の手で積極的に発言する6年生

身近な場所から環境美化を！

アダプト・プログラムは、美しく住みよいまちを願う気持ちがあれば、誰もが気軽に参加できる制度です。

地域の皆さんと行政が手を携えて、身近な場所から地道に活動を続けていけば、周囲の人たちの美化意識も徐々に変わっていくはずですよ。

ごみのない、美しいまちが西区全体に広がっていくよう、皆さんもできることから始めてみませんか？

活動団体
募集中！

【問い合わせ先】
西区地域振興課 TEL641-2400 内線253

この地域は私達がアダプトしました
大成ロテック株式会社 道央営業所

ポイ捨てを防止、美しいまちづくりを目指しましょう！
お問い合わせ：西区地域振興課 TEL 641-2400

対象区域に掲示されている「アダプト・サイン」

アダプトされた地域は新たに生まれ変わるという考えから、人の手から緑が芽生えるようなイラストにしています。